

【ワークシート⑫】 理解度確認用ワークシート

① 教科の本質を追求する単元構想に関する理解度評価用ルーブリック

「逆向き設計」論をふまえた単元構想について、あなたの理解はどのレベルに達しているでしょうか？  
該当するレベルの記述語に■を記入しましょう。

| レベル        | 記述語  |
|------------|--|
| 適応的<br>熟達者 | <input type="checkbox"/> 教科内容を構造化し、単元レベルだけでなく、より長期的な視野をもって、教科の本質を的確にとらえるとともに、それと目の前の子どもの具体的な思考や理解と結び付けて「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題を設計し、それを子どもの学びのストーリーとして効果的に組織化した単元構想ができる。また、目の前の子どもの実態に応じて、単元の途中で学びの道筋や終末の課題を再設計したりできる。学校のカリキュラム全体を熟知・展望し、他の教師にもコーチングやメンタリングができる。 |
| 熟達者        | <input type="checkbox"/> 教科内容を構造化し、教科の本質を的確にとらえるとともに、それと目の前の子どもの具体的な思考や理解と結び付けて「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題を設計し、それを子どもの学びのストーリーとして効果的に組織化した単元構想ができる。   |
| 中堅         | <input type="checkbox"/> 知識・概念やスキルの類型をふまえて、本質的な内容がある程度とらえて、それを子どもの思考や理解と結び付けて「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題を設計し、それを無理なく位置づけた単元構想ができる。  |
| 初心者        | <input type="checkbox"/> 知識・概念やスキルの類型をふまえて教科内容の構造を不十分ながらとらえようとしていて、本質的な内容をとらえきれてはいるが、「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題を形だけは盛り込んで単元構想ができる。   |

② 「学力評価スペシャリスト」のための理解度チェックリスト

このチェックリストには、学力評価に関する探究を支援するための「問い」を示しています。それぞれの「問い」に対する限定的な理解を求めるものではありません。この「問い」を手掛かりに関連書籍を読んだり校内研修で議論を行ったりして、理解を深めていきましょう。

A. 教科の本質を追求する単元構想

|   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (1) パフォーマンス評価とは、どのような評価なのか？                            |
| <input type="checkbox"/> (2) パフォーマンス課題を用いる意義は何か？                                |
| <input type="checkbox"/> (3) 「知の構造」と評価方法・評価基準は、どのように対応しているのか？                   |
| <input type="checkbox"/> (4) 担当教科において、パフォーマンス課題はどのような単元に位置づければよいのか？             |
| <input type="checkbox"/> (5) 担当教科の「本質的な問い」・「永続的理解」（教科の特質に応じた「見方・考え方」）はどのようなものか？ |
| <input type="checkbox"/> (6) パフォーマンス課題のシナリオは、どのように作ればよいのか？（妥当性、真正性、レリバンス、レディネス） |
| <input type="checkbox"/> (7) パフォーマンス課題に取り組む力を身につけさせるために、どのように単元を構造化すればよいのか？     |
| <input type="checkbox"/> (8) 教科や単元を超える視点をパフォーマンス課題にどのように活かすか？                   |

## B. 学習者主体の授業構想

|   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (1) 教科において、使えるレベルの学力（「見方・考え方」など）を育てる学習活動はどのようなものか？                   |
| <input type="checkbox"/> (2) 目標を明確化するとはどういうことか？   |
| <input type="checkbox"/> (3) 「教科書で教える」とはどういうことか？  |
| <input type="checkbox"/> (4) ここ一番で学習者にゆだねる授業展開をどうつくるか？  |
| <input type="checkbox"/> (5) どうすればパフォーマンス課題に向けて力をつけていく授業展開ができるのか？                             |
| <input type="checkbox"/> (6) グループ学習など多様な学習形態をどう効果的に使うのか？                                      |
| <input type="checkbox"/> (7) 子どものつまづきを教師が生かすだけでなく子ども自身が生かす（自己評価力の育成につなげる）には、どのような手立てが考えられるのか？ |

## C. 「目標に準拠した評価」の実現

|   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (1) 「目標に準拠した評価」の意義と課題は何か？                                |
| <input type="checkbox"/> (2) 診断的評価・形成的評価・総括的評価とはどのようなものか？                         |
| <input type="checkbox"/> (3) 「資質・能力」の3つの柱に対応する有効な評価方法は何か？                         |
| <input type="checkbox"/> (4) 情意領域（「主体的に学習に取り組む態度」）をどのように評価するのか？                   |
| <input type="checkbox"/> (5) ルーブリックとは何か？ どのようにつくればよいのか？                           |
| <input type="checkbox"/> (6) 学力評価計画をどのように立てればよいのか？<br>（カリキュラム適合性，比較可能性，公正性，実行可能性） |
| <input type="checkbox"/> (7) 個人内評価をどのように位置づければよいのか？                               |
| <input type="checkbox"/> (8) ゴールフリー評価（目標にとらわれない評価）をどのように位置づけるのか？                  |

## D. カリキュラム改善

|   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (1) カリキュラム・マネジメントとは何か？                       |
| <input type="checkbox"/> (2) どのようにカリキュラム評価を行えばよいのか？                   |
| <input type="checkbox"/> (3) カリキュラムの改善をどのように進めればよいのか？                 |
| <input type="checkbox"/> (4) ルーブリックづくりから指導の改善をどのように図ればよいのか？           |
| <input type="checkbox"/> (5) 「資質・能力」を育成するカリキュラム（年間指導計画）をどのように構想できるのか？ |
| <input type="checkbox"/> (6) ポートフォリオ評価法をどのように活用できるのか？                 |
| <input type="checkbox"/> (7) 校内研修をどのように行えばよいのか？                       |

\* 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 主催「学力評価スペシャリスト研修」（2017年度）にて、北原琢也作成。ただし、転載にあたって書式は変更した。奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準，2020年，巻末資料②。